

令和元年 9 月 26 日
筑波大学

革新的創薬開発研究センターを設立

国立大学法人筑波大学（学長：永田恭介、以下「筑波大学」）は、令和元年 10 月 1 日付けで、「革新的創薬開発研究センター」（センター長：澁谷 彰 筑波大学生存ダイナミクス研究センター教授）を設立します。同センターは、少子超高齢社会における医療ニーズに応える革新的創薬・診断技術の開発研究を推進します。

現在、我が国では、少子超高齢社会が進みつつあり、生活習慣、老化などに起因するがん、循環器、運動器、精神神経、代謝、免疫などの慢性難治性疾患が増加し、疾病構造の変化が生じてきています。このような社会の中で、人生100年時代に向けて、全ての人々が、それぞれのライフステージで、生き生きと、健やかに、安心して生活できる社会の創生が望まれています。

近年、再生医療、ゲノム医療、人工知能、ビッグデータの活用など、未来医療を支える技術革新に大きな関心と期待が寄せられています。しかし、社会の医療ニーズに応えるためには、基礎研究の現場でのニーズを見据えたシーズの発掘、発見に始まり、これを多様な専門家の協業のもとで、育み、発展させ、応用する段階的なステップを踏むことが極めて重要です。

本学では、医学医療系を中心として複数の研究組織の教員が、社会の医療ニーズに応え得る多様で魅力的なシーズを数多く有しており、本学には革新的医療の開発のための大きなポテンシャルがあります。そこで、「革新的創薬開発研究センター、英語名：R&D Center for Innovative Drug Discovery（以下、「センター」という。）」を設置し、少子超高齢社会における医療ニーズに応え、シーズのさらなる発掘、育成から、これらを応用展開し、社会実装するための基礎研究から創薬・診断技術の開発研究を推進します。これにより、以下の成果が期待されます。

（1）社会貢献

人生100年時代に向けて、全ての人々が、それぞれのライフステージで、生き生きと健やかに生活するための医療技術の発展に貢献できます。

（2）医療産業の活性化

革新的医療の社会実装に伴う医療産業の活性化および開発研究への正のスパイラル効果が期待できます。

（3）産学連携の推進、外部資金獲得の拡大

産学のそれぞれの強みを生かした協業により、開発研究の加速が期待できるとともに、

本学の教育研究にかかる外部資金獲得の拡大による財政基盤の強化につながります。

(4) 本学の若手人材育成の活性化

先端基礎研究、開発研究に学生が参画することによる若手人材育成の活性化が期待できます。

「開発研究センター」

社会還元型の研究を推進しイノベーション創出を促進するために、外部資金等を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築する組織。期間は5年で延長もできるが、外部資金での運営が不可能になった時点で廃止となる。筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献のミッションを担う新たな組織として平成27年7月1日付けで創設された。名称は「開発研究センター」とし、筑波大学国際産学連携本部のもとに開設される。

■問い合わせ先

国立大学法人筑波大学

生存ダイナミクス研究センター教授 澁谷 彰

TEL 029-853-3474